**コルクット・ギュンゲン大使のトルコ共和国建国記念スピーチ**

ご臨席の皆様

共和国建国の100周年を記念し開催した本レセプションにご臨席賜り御礼申し上げます。皆様とお目にかかることができ大変うれしく存じます。改めて歓迎いたします。

誇りに思う我が国の歴史と文化を礎に、100年前に共和国が建国されました。建国にたどりつくまでの奮闘を忘れることはありません。当時の精神こそが、今私たちの道しるべとなっています。

我々は我が国の歴史や文化を礎にしている一方で、同時に現代の国際社会が我々に課している責任を自覚して行動しています。

我が国の建国の父であり、初代大統領のガーズィ・ムスタファ・ケマル・アタテュルクと、ともに戦った先人たちに建国100周年のこの節目に改めて深い敬意と感謝の念をもって哀悼の誠を捧げます。

皆様、

トルコは今日、躍動する経済、確固たる民主的な基盤をもって、そして法の支配と基本的人権の原則に忠実に地域と世界の安定の要です。

今日において、よりはっきりと浮き彫りになった不規則な移民の流れ、気候変動、エネルギー問題、食糧安全保障などのグローバル課題に対して、積極的な外交展開を続けて参ります。罪なき一般市民が命を落とし、苦しみの連鎖を引き起こす戦争、紛争、人道危機の解決のために、あらゆる努力を惜しみません。大統領が提唱したビジョン「トルコの世紀」では、国際関係はもとより様々な分野での新しい取り組みに触れられています。

ご参会の皆様

トルコと日本の友情、連帯、協力が日々ますます深まっていることをうれしく思います。また二国間関係が10年前に戦略的パートナーシップに引き上げられたことを、この観点から大変意義あることと捉えています。来年には国交樹立100周年を迎えることも喜ばしいことです。

国交樹立前、1887年の小松宮親王殿下のイスタンブル訪問、その後1890年のエルトゥールル号の日本訪問と凄惨な事故から始まった友情は、時を超えて両国民が様々な機会に互いに支援の手を差し伸べる今日（こんにち）の強い絆へと発展しました。今年我が国が経験した震災を受け、発災直後からお心寄せいただきた日本国そして日本国民に、この機会に改めて御礼申し上げます。

友情を紡ぐのは簡単なことではありません。我々はこの友情の価値を理解しており、未来をしっかりと捉えています。日本の皆様も同じ思いを持っていると信じています。この思いを次世代にともに引き継いでいきます。

経済、貿易、投資、エネルギー、科学技術、産業のすべての分野に加え、教育、医療、スポーツなどの領域において、日本との二国間協力の枠を拡大していくことを目標にしています。そして、この協力関係を第三国や他の地域にも広げていくよう努めています。

この機会に、トルコ日本科学技術大学プロジェクトに触れさせていただきたいと思います。先週イスタンブルで広報発表会が執り行われた本大学は来年開学予定です。これにより二国間関係の領域がさらに広がり、強化されることでしょう。大学の開学にご寄与をいただいている日本側関係者の方々も本日ご列席です。

トルコは昨年、観光客受け入れ数世界第三位の国となりました。観光は両国民の交流をもたらす一つのツールです。このツールを最大限活用したいと考えています。その観点から、世界最大の就航先数を誇る航空会社であるターキッシュエアラインズが日本への就航便数を増大することを大変意義深いものと捉えています。

本日お集りのトルコ国民の皆様、

皆さんは日本と我が国をつなぐ重要な架け橋です。ビジネスをしている方々、研究者、学生、アーティスト、技術者、日本の様々な業界で活躍されている皆さんお一人お一人が日本において我が国を代表している存在です。祖国とのつながりを絶やさず、同時に日本で努力をし、日本に貢献をしているでしょう。あなた方の存在そして活動が、日本と我が国の関係をさらに発展するうえで重要な役割を果たします。この観点から、大使館の諸活動に力添えをいただいていることに御礼申し上げます。

皆様、

トルコと日本の友好関係が今後もますます発展していくことを確信しています。これまでともに歩んできた我々の足跡一歩一歩が、これから踏み出す一歩一歩の保証となるでしょう。

改めて皆様に敬意を表します。